

氏 名	本郷 貴識
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博 甲第 6809 号
学位授与の日付	2023 年 3 月 24 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 生体制御科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)
学位論文題目	Association between timing of speech and language therapy initiation and outcomes among post-extubation dysphagia patients: a multicenter retrospective cohort study (人工呼吸管理後の嚥下障害(Post Extubation Dysphagia)における ST 介入時期の検討：多機関後ろ向き観察研究)
論文審査委員	教授 森松博史 教授 岩崎達雄 准教授 岡崎幹生

学位論文内容の要旨

【背景】人工呼吸管理は ICU で必須の処置であるが、人工呼吸を離脱しても、嚥下障害(Post Extubation Dysphagia (PED))が 60%以上の頻度で生じ、死亡率、肺炎、退院後嚥下障害、病院滞在期間の延長、医療費と関連があるとされている。PED 治療は一般的に ST が行われているが、ICU 内で至適 ST 介入時期の検討は未だになされていない。

【目的】PED に対して、ST 介入時期と嚥下障害との関連を検討した。

【方法】2017 年 1 月から 2020 年 12 月までに日本国内の 8 病院の ICU に入院した人工呼吸を要する成人例で、抜管後、改訂水飲み込みテスト陽性且つ、ST 介入があった症例を診療録に基づき検討した。患者背景、治療の因子を調整し ST 介入時間と退院時・28 日嚥下障害(FOIS : 5 点未満)、誤嚥性肺炎、再挿管の有無、院内死亡との関連を検討した。

【結果】272 例が対象症例とした。抜管後 ST 介入時期は 1.0 (0.3-2.2) day であり、退院時嚥下障害 82 例(30.1%)、28 日嚥下障害 76 例(42.9%)、誤嚥性肺炎 67 例(28.8%)、再挿管 18 例(7.7%)、院内死亡 21 例(9.0%)であった。多変量解析にて退院時嚥下障害 AOR 1.09 (95% CI 1.02-1.18)、28 日後嚥下障害 AOR 1.21 (95% 1.07-1.36)、誤嚥性肺炎 AOR1.09 (95% 1.02-1.17)が ST 介入時期との関連因子であった。

【結論】集学治療を要した人工呼吸管理後の PED 患者に対する ST 介入時期の遅れは嚥下障害や誤嚥性肺炎と有意に関連しうるため、抜管後 1 日内の ST 介入が PED を妨げる重要な因子となりうる可能性がある。

論文審査結果の要旨

集中治療室での人工呼吸離脱・抜管後の嚥下障害は 60%以上の頻度で生じ、死亡率、肺炎などと関係があるとされている。一般的には嚥下障害への介入は言語聴覚士(ST)によって行われるが、その至適時期の検討は未だになされていない。

本研究では日本国内の 8 病院の ICU に入院した人工呼吸を要する成人例で、抜管後、改訂水飲み込みテスト陽性且つ、ST 介入があった症例を診療録に基づき検討している。272 例が対象となり、多変量解析にて退院時嚥下障害、28 日後嚥下障害、誤嚥性肺炎が ST 介入時期と関連していることを示した。

委員からは調査病院の選択、介入の程度、患者背景因子の確認に関して質問があったが、それぞれに対して研究公募を行ったこと、介入の程度は統一できていないこと、抜管前人工呼吸は約 5 日間であった事など、的確に回答できていた。

本研究は集中治療室における抜管後の ST 介入を行う上での基礎的データとなり、今後の研究を行う上での重要な知見を得たものとして価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。